

2016年東北海区の海況の特徴

奥西武・笥茂穂・長谷川大介・横内克巳（東北水研）

関係各機関及び東北水産研究所の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図、並びに NOAA 衛星の熱赤外画像、Jason-2・Envisat 衛星による海面高度観測結果に基づいた海況の経過の特徴を以下に述べる。近海の黒潮北限位置、親潮第1分枝先端緯度については、1960～2015年までのデータを用いて、平年並み等を定義している。

1. 2016年の海況の経過

表面水温

(1) 北海道南東方では1～9月は平年並み～高めで推移し、10～12月は平年並み～低めで推移した。本州東方では2～10月は高めで推移し、1月、11～12月は平年並みで推移した。

黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離岸は、1、5月、9～12月は接岸、2～4月、7月、8月は平年並み、6月はやや離岸であった。

(2) 近海の黒潮の北限位置は、1、5月、9～12月は平年並み、2～4月はやや南偏～かなり南偏、6月、7月はやや南偏、8月は一時的にやや北偏で推移した。

混合水域

○黒潮系暖水

(1) 近海の北限位置は、3月、6月に一時的に極めて北偏で推移し、それ以外の月はやや南偏～やや北偏で変動した。

○暖水塊

2010年8月に常磐沖で認められ、2011年秋季より釧路沖で停滞している2010Gは、2016年10月まで釧路沖で停滞し、その後、12月にかけて根室沖東方に移動した。1月に金華山はるか沖に認め

られた2016Aは、6月まで停滞し、その後、2016Dに吸収された。4月に金華山沖で認められた2016Bは6月まで停滞し、その後2016Cに吸収された。常磐沖で6月に認められた2016Cは、12月にかけて三陸沖に北上した。金華山はるか沖で7月に認められた2016Dは、12月まで停滞した。

親潮域

○親潮第1分枝

(1) 親潮第1分枝は、1～8月、10月、12月はやや北偏～かなり北偏で推移した。9月は平年並みであり、11月は確認できなかった。

(2) 第1分枝に連なる冷水が、4月、6月、8月および9月に三陸沖に存在した。

○親潮第2分枝

親潮第2分枝の先端緯度は、3月、4月はかなり北偏～極めて北偏、5～7月に平年並み～やや南偏、8月、9月はかなり北偏～やや北偏、10月は平年並みであった。1月、2月、11月、12月は確認できなかった。

津軽暖流域

下北半島東方での張り出しは、1～4月は平年並み～やや強勢で推移し、5月以降は平年並み～極めて弱勢で推移した。

2016年における海況の特徴

(1) 表面水温は、冬季～夏季は高め基調、秋季以降に平年並み～低め基調となった。

(2) 暖水塊2010Gは10月まで釧路沖で停滞し、その後、根室沖東方に移動した。

(3) 近海の黒潮の北限位置は、平年並み～かなり南偏で変動した。

(4) 親潮第1分枝の張り出しは、やや北偏～かなり北偏で概ね推移した。